シラバス集

マロニエ医療福祉専門学校

看護学科　実習科目

2024 年度

シラバスの見方

※この PDF ファイルには目次(しおり)がついています。スマートフォンを使用中の方は画面上の設定等から目次を呼び出してご利用ください。

授業科目名	①		
実務経験講師	②	実務経験	③
開講年度	④　年度	学　期	⑥
年　次	⑤　年次	授業回数	⑦　回
単 位 数	単位	単位時間数	時間
授業科目の概要	⑧		
授業科目の到達目標	⑨		

授業スケジュールと内容

回	内　容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6	⑩		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑪
参考書・資料　等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

①　授業科目名

②　実務経験講師

講師に担当する科目に関係する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

③実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

④開講年度

⑤年次

授業を受ける学年です。

⑥学期

前期・・・4 月～9 月

後期・・・10 月～3 月

通年（全期）・・・1 年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑦授業回数

⑧授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑨授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達するべき学修の目標です。

⑩授業スケジュールと内容

内容・・・1 回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑪使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

別表Ⅰ－6

看護学科　授業科目一覧

区分	教育内容	授業科目名	指定規則	学校指定		1年次		2年次		3年次	
			単位数	単位数	時間数	単位	時間	単位	時間	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	14	1	30	1	30				
		情報科学		1	15	1	15				
		生活科学		1	15	1	15				
	人間と生活・社会の理解	教育学		1	15			1	15		
		倫理学		1	15	1	15				
		社会学		1	15	1	15				
		心理学		1	30	1	30				
		人間関係論		1	30	1	30				
		カウンセリング論		1	15			1	15		
		家族論		1	15			1	15		
		地域論		1	15	1	15				
		英語		1	30	1	30				
		運動と健康Ⅰ		1	30	1	30				
		運動と健康Ⅱ		1	15			1	15		
基礎分野・小計			14	14	285	10	225	4	60	0	0
専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	生化栄養学	16	1	30	1	30				
		人体の構造と機能総論		1	30	1	30				
		人体の構造と機能Ⅰ		1	30	1	30				
		人体の構造と機能Ⅱ		1	30	1	30				
		人体の構造と機能Ⅲ		1	30	1	30				
		人体の構造と機能Ⅳ		1	30	1	30				
		人体の構造と機能Ⅴ		1	30	1	30				
		疾病治療総論		1	30	1	30				
		微生物学と感染症		1	30	1	30				
		疾病治療論Ⅰ		1	30	1	30				
		疾病治療論Ⅱ		1	30	1	30				
		疾病治療論Ⅲ		1	30	1	30				
		疾病治療論Ⅳ		1	30	1	30				
		疾病治療論Ⅴ		1	30			1	30		
		疾病治療論Ⅵ		1	30			1	30		
		臨床薬理学		1	30	1	30				
	健康支援と社会保障制度	総合医療論	6	1	15	1	15				
		公衆衛生学		1	15			1	15		
		社会福祉論Ⅰ		1	15	1	15				
		社会福祉論Ⅱ		1	15			1	15		
		関係法規		1	15					1	15
		医療と経済		1	15			1	15		
専門基礎分野・小計			22	22	570	16	450	5	105	1	15
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	11	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅰ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅱ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅲ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅳ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅴ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅵ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅶ		1	30	1	30				
		看護過程		1	30			1	30		
		看護研究		1	30					1	30
		臨床看護総論		1	15	1	15				
		基礎看護学実習Ⅰ	3	1	45	1	45				
		基礎看護学実習Ⅱ		2	90			2	90		
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護学概論	6	1	30	1	30				
		地域・在宅看護方法論Ⅰ		1	15			1	15		
		地域・在宅看護方法論Ⅱ		1	15			1	15		
		地域・在宅看護方法論Ⅲ		1	15			1	15		
		地域・在宅看護方法論Ⅳ		1	30			1	30		
		地域・在宅看護方法論Ⅴ		1	30			1	30		
		地域・在宅看護論実習	2	2	90					2	90
	成人看護学	成人看護学概論	6	1	30	1	30				
		成人看護学方法論Ⅰ		1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅱ		1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅲ		1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅳ		1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅴ		1	30			1	30		
		成人看護学実習Ⅰ	2	2	90			2	90		
		成人看護学実習Ⅱ		2	90					2	90
		成人看護学実習Ⅲ		2	90					2	90
	老年看護学	老年看護学概論	4	1	30	1	30				
		老年看護学方法論Ⅰ		1	30			1	30		
		老年看護学方法論Ⅱ		1	15			1	15		
		老年看護学方法論Ⅲ		1	30			1	30		
		老年看護学実習Ⅰ	2	2	90			2	90		
		老年看護学実習Ⅱ		2	90					2	90
	小児看護学	小児看護学概論	4	1	30	1	30				
		小児看護学方法論Ⅰ		1	15			1	15		
		小児看護学方法論Ⅱ		1	30			1	30		
		小児看護学方法論Ⅲ		1	30			1	30		
		小児看護実習	2	2	90					2	90
	母性看護学	母性看護学概論	4	1	30	1	30				
		母性看護学方法論Ⅰ		1	15			1	15		
		母性看護学方法論Ⅱ		1	30			1	30		
		母性看護学方法論Ⅲ		1	30			1	30		
		母性看護学実習	2	2	90					2	90
	精神看護学	精神看護学概論	4	1	30	1	30				
		精神看護学方法論Ⅰ		1	15			1	15		
		精神看護学方法論Ⅱ		1	30			1	30		
		精神看護学方法論Ⅲ		1	30			1	30		
		精神看護学実習	2	2	90					2	90
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ	4	1	30			1	30		
		看護の統合と実践Ⅱ		1	30			1	30		
		看護の統合と実践Ⅲ		1	15					1	15
		看護の統合と実践Ⅳ		1	30					1	30
		看護の統合と実践実習	2	2	90					2	90
専門分野　小計			66	66	2,190	16	480	31	915	19	795
合計			102	102	3,045	42	1,155	40	1,080	20	810

授業科目名	基礎看護学実習Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024 年度	学　期	後期
年　次	1 年次	授業回数	5 日間
単 位 数	1 単位	単位時間数	45 時間
授業科目の概要	看護実践の場での体験を通して、看護とは何かを考え、看護を学ぶ上で必要な基本姿勢を学ぶ。 対象を取り巻く環境（物的・人的環境）が、対象の健康・生活へ及ぼす影響を知り、学校で学習した知識・技術・態度をもとに根拠をもって必要な看護を実践する。		
授業科目の到達目標	1. 7 月：①療養生活を送る対象者の療養環境をしることができる。 ②対象の療養生活を支える多職種と活動内容を知る。 2. 11 月：①対象との関りを通してコミュニケーションの重要性について理解できる。 ②対象の日常生活援助の必要性を考え、見学・実施できる。 ③看護者としての基本的態度を身につける。		

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内　　容	実習方法	記録用紙
1	7 月 各実習病院	病院の概要：病院、看護部の理念・基本方針 対象の療養生活を支える多職種の活動について 対象を取り巻く療養環境：病棟の構造・配置 病室の環境・病床環境	病棟実習	指定の記録用紙
2	11 月 各実習病院	病棟オリエンテーション、患者紹介・あいさつ 情報収集、コミュニケーション 対象の安全・安楽をふまえた日常生活援助	病棟実習	指定の記録用紙

使用テキスト	基礎看護概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ
参考書・資料　等	看護がみえる①、看護がみえる②、看護がみえる③
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学概論 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅴ、臨床看護総論
この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学方法論Ⅵ・Ⅶ 基礎看護学実習 B
成績評価の方法	評価表に準じて評価
その他 受講生への要望等	講義で学習した健康障害を抱えて療養生活をおくる対象者の、療養環境や療養生活に目を向け、生活者である対象の日常生活を援助する意義について理解を深めて欲しい。

授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024 年度	学　期	後期
年　次	2 年次	授業回数	
単　位　数	2 単位	単位時間数	90 時間
実習の概要	基礎看護学において学習した知識、技術、態度をもとに、入院している対象者の身体的・精神的・社会的側面をヘンダーソンの看護論に基づき考え、看護過程の展開をする。		
実習の到達目標	1. 対象者を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる 2. ヘンダーソンの看護論を用いて看護問題の明確化ができる 3. 看護計画の立案をし、立案した看護計画に沿って実施・評価をすることができる 4. 看護者として必要な基本的態度を身につけ、自己を振り返ることができる		

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内　　容	実習方法	記録用紙
1	9 月 各実習病院	情報収集、情報の分類・整理 情報の分析、優先順位の決定、看護問題の明確化 看護計画立案、看護計画実施、看護計画評価、 看護計画評価後の追加・修正	病棟実習	指定の記録用紙

使用テキスト	基礎看護概論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、疾病治療論
参考書・資料　等	看護がみえる①、看護がみえる②、看護がみえる③
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、生化栄養学、臨床薬理学、微生物学と感染症、疾病治療論、 人間関係論、基礎看護学概論、基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅶ、臨床看護総論、看護過程 基礎看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	成人看護学方法論Ⅴ、老年看護学方法論Ⅲ、小児看護学方法論Ⅲ、母性看護学方法論Ⅲ、精神看護学方法論Ⅲ、看護研究、看護の統合Ⅲ・Ⅳ 成人看護学実習Ⅰ～Ⅲ、老年看護学実習Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学実習 地域・在宅看護論実習、看護の統合実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価
その他 受講生への要望等	ヘンダーソンの看護論に当てはめながら実際の対象者へ看護展開をする初めての機会である。今まで学んできた知識・技術・態度を今回の実習を通して更に研鑽し、領域の看護過程や各論実習へ繋げて欲しい。

授業科目名	地域・在宅看護論実習		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024 年度	学　期	全期
年　次	2～3 年次	授業回数	
単 位 数	2 単位	単位時間数	90 時間
授業科目の概要	在宅看護論実習では、訪問看護ステーション実習、地域包括支援センター実習、市保健福祉センター（健康増進課）での実習を通して、地域の中で療養する人々とその家族を理解し、在宅看護の場・機能・役割の実際について学ぶことを目的とする授業科目です。 訪問看護ステーション実習では、疾病や障害を抱えながら生活していく上での問題点を明確にし、訪問看護師としてどのような看護介入ができるか考えられることを目指します。また、訪問看護師にとって多職種や関係機関との連携、調整や社会資源の関するケアマネジメントも訪問看護師にとって重要な役割となります。受け持ち事例を通して、社会資源の理解や関係職種の連携について考えられることを目指します。 地域包括支援センター実習では、支援を行う対象、利用者のニーズ、地域包括支援センターが地域に果たす役割について学ぶとともに、事業の実際を学びその必要性について考えられることを目標とします。また、地域包括ケアにおける多職種連携の実際を理解することを目指します。 福祉用具事業実習では、在宅で療養している人々とその家族が利用している社会資源と社会制度の関連性について理解することを目指します。 退院調整実習（退院調整看護師の役割）では、退院調整看護師が患者や家族が在宅や地域で自分らしく過ごすことを支援し、地域をつなぐ役割を担っている現状を知り、医療と生活の両方の視点で多職種に対してリーダーシップやマネジメントを行うことの重要性について理解することを目指します。		
授業科目の到達目標	1　地域の特性及び健康問題を知り、それに対する保健医療福祉サービスの現状について述べることができる 2　あらゆる健康状態にある対象とその家族を理解し、適切な在宅看護援助の方法について述べることができる 3　対象とその家族の価値観を尊重し、信頼関係を築くためのコミュニケーション技術が実践できる 4　在宅療養を支えるシステムを理解し、その関係職種の役割と連携、社会資源の活用について述べることができる 5　実習を通して看護観・家族観を深めることができる		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	実習方法	記録用紙
1	【学内】オリエンテーション 在宅看護論実習に必要な知識、技術の確認	学内	在宅看護論実習記録

2	訪問看護ステーション実習 オリエンテーション 受け持ち療養者の紹介および受け持ち療養者の選定 バイタルサイン測定・コミュニケーション 援助の一部介助・援助見学	訪問看護ステーション実習	在宅看護論実習記録 1、2、3、4、5
3		訪問看護ステーション実習	在宅看護論実習記録 1、2、3、4、5、
4		訪問看護ステーション実習	在宅看護論実習記録 1、2、3、4、5、9
5	【学内】 記録整理（在宅看護論記録 1、2、3、5） 看護計画（在宅看護論記録 4）の立案 受け持ち事例の疾患・治療・看護の追加学習 看護技術の練習	学内 個人ワーク	在宅看護論実習記録 1、2、3、4、5
6	訪問看護ステーション実習 バイタルサイン測定・コミュニケーション 援助の一部介助、実施・援助見学	訪問看護ステーション実習	在宅看護論実習記録 1、2、3、4、5
7	訪問看護ステーション実習 バイタルサイン測定・コミュニケーション 援助の一部介助、実施・援助見学	訪問看護ステーション実習 カンファレンス：訪問看護ステーション実習での学び、ケースカンファレンス	在宅看護論実習記録 1、2、3、4、5
8	【学内】 訪問看護ステーション実習まとめ 支援連携図の作成（在宅看護論記録 2） 必要となる社会資源および支援について考える （在宅看護論記録 2） 訪問看護ステーション実習の学び （在宅看護論記録 8） ①地域包括支援センター実習オリエンテーション、知識の確認 ②福祉用具事業実習オリエンテーション、知識の確認	学内 個人ワーク カンファレンス：受け持ち療養者へのケアについての振り返り	在宅看護論実習記録 1、2、3、4、5、9 在宅看護論実習記録 7、8
9	①地域包括支援センター実習 オリエンテーション 事業の見学、同行訪問	①地域包括支援センター実習 ②福祉用具事業実習	在宅看護論実習記録 7、8
10	②福祉用具事業見学 オリエンテーション 事業の見学、同行訪問	①地域包括支援センター実習 ②福祉用具事業実習	在宅看護論実習記録 7, 8
11	【学内】 地域包括支援センター実習まとめ 看護観、家族感について自己の考えをまとめる	学内 カンファレンス：地域包括支援センター実習での学び	在宅看護論実習記録 7、8

12	退院調整部門（退院調整看護師の役割）実習 講義 グループワーク	学内	在宅看護論実習 6

使用テキスト	①医学書院　系看・統合分野　　在宅看護論 ②メディカ出版　ナーシンググラフィカ　地域療養を支えるケア　在宅看護論①
参考書・資料　等	同上
この授業科目の前提となる主な科目	人間関係論Ⅰ～Ⅱ　関係法規、社会福祉　公衆衛生学　人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ 疾病治療論Ⅰ～Ⅵ 基礎看護学概論　基礎看護学臨床看護総論　基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅳ 成人看護学概論　老年看護学概論　母性看護学概論　小児看護学概論　精神看護学概論 成人看護学方法論Ⅰ～Ⅳ　老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱ　小児看護学方法論Ⅰ～Ⅱ 母性看護学方法論Ⅰ～Ⅱ　精神看護学方法論Ⅰ～Ⅱ 在宅看護論概論、在宅看護論方法論Ⅰ、在宅看護論方法論Ⅱ、在宅看護論方法論Ⅲ
この授業科目から発展する主な科目	臨地実習　看護の統合実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	在宅看護論実習の受講には、実習前に以下の科目を全て修得している必要がある。 ・在宅看護論概論・在宅看護論方法論Ⅰ・在宅看護論方法論Ⅱ・在宅看護論方法論Ⅲ 11 回目の市保健福祉センター（健康増進課実習）実習は、7 月に 2 グループにわけて実習を行う。そのため、実際の在宅看護論実習スケジュールでは振替日になります。

授業科目名	成人看護学実習Ⅰ（周術期）		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024 年度	学　期	全期
年　次	2～3 年次	授業回数	
単　位　数	2 単位	単位時間数	90 時間
授業科目の概要	成人看護学実習Ⅰでは周術期の対象を受け持ち、術前・術後の看護、ボディイメージの変化に伴う看護を学びます。また、手術室の見学を行い術中の対象者の状態を知り、術後の看護を考える視点を学びます。また術後の回復期には、二次障害の予防と社会復帰に向けて生活の自立を目指すリハビリテーションについて学ぶとともに、看護の継続性について理解を深めます。		
授業科目の到達目標	1. 周術期にある対象および家族の特徴について述べられる 2. 対象に行われている検査・処置の目的が述べられる 3. 手術に至るまでの経緯についてアセスメントできる 4. 術前の患者・家族の心理・社会的側面を理解できる 5. 手術・麻酔が身体に及ぼす影響について述べられる 6. 手術が心理・社会的側面に及ぼす影響について述べることができる 7. 術後合併症や二次的障害について述べることができる 8. 周術期にある対象の症状・反応を観察しながら、安全・安楽・自立に配慮した援助ができる		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	実習方法	記録用紙
1	【学内日①】 1. 実習オリエンテーション 2. 技術練習 3. 受け持ち患者情報提供と事前学習	実習要項を用いた実習の説明 実習室にて1Gが 1 ベッドを使用し、指示された課題チェック表を用いて技術練習を行う	看護過程様式 1 号 成人看護過程様式 1 号 技術練習課題用紙
2	病棟オリエンテーション 情報収集（vs 測定含む） 情報の分類・整理 ※手術を受ける対象・家族の心理、社会的状況について述べる	病棟実習 カンファレンス： 個人目標・G 目標発表、本日の気づきや学びの共有	看護過程様式 1・2 号 成人看護過程様式 1～3号
3	援助（見学・一部介助） 情報収集・情報の分類　看護問題の明確化①	病棟実習	看護過程様式 1・3号 成人看護過程様式 1～3号
4	情報収集・情報の分類 看護計画実施・評価　看護問題の明確化②	看護問題の 方向性の個人指導	看護過程様式 1・2 号 成人看護過程様式 1～3号

5	【学内日②】　　看護問題の明確化③ 1～4号用紙の記入 特に 8 号分析・解釈を進める 学習会計画書作成	関連図（成人看護過程様式２号）の提出 学習会計画書に必要事項を記載し、教員に提出し添削を受ける	看護過程様式 1・2 号 成人看護過程様式 1～3．8.9号
6	情報収集・情報の分類 看護計画実施・評価	カンファレンス 今まで実施した看護の発表	看護過程様式 1・2 号 成人看護過程様式 1～3．8.9号
7	援助 情報収集・情報の分類 看護計画実施・評価	カンファレンス 今まで実施した看護 の発表	看護過程様式 1・2 号 成人看護過程様式 1～3．8.9号
8	援助 情報収集・情報の分類 看護計画実施・評価	ケースカンファレンス	看護過程様式 1・2 号 成人看護過程様式 1～3．8.9号
9	【学内日③】 学習会資料の作成 学習計画書に基づき資料を作成 記録の記入　実施・評価	テキストや図書館の文献を用い使用し資料を作成する	成人看護過程様式 6-1 号
10	計画実施・評価（追加・修正）		看護過程様式 1・2 号 成人看護過程様式 1～3．8.9号
11	計画実施・評価（追加・修正）	カンファレンス 成人看護学実習を通しての学び・気づき、今後の課題	看護過程様式 1.2.5 号 成人看護過程様式 1～3．8.9号
12	【学内日④】 学習会発表会準備 成人看護学実習のグループ合同学習会実施（学習会終了後は振り返りをグループ全体で行い記録用紙に記入し、担当教員に提出する		看護過程様式 1.2.5 号 成人看護過程様式 1～3．8.9号

使用テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学①　成人看護学総論 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　ヌーベルヒロカワ 系看　別巻　臨床外科看護総論　医学書院 系看　別巻　臨床外科看護各論　医学書院 ナースのためのくすりの事典 2017　へるす出版　　検査値ガイドブック
参考書・資料　等	対象に合わせて選択
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般、人体の構造と機能、疾病治療論、基礎看護学概論、 基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ、臨床看護総論、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴ、

この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴ、成人看護学実習Ⅰ～Ⅲ、 看護の統合と実践 看護の統合Ⅰ~Ⅱ
成績評価の方法	評価表参照
その他 受講生への要望等	対象の生活習慣が及ぼす影響と、病態を関連させながら、疾患と合併症の主要症状が理解できるように、知識を確認して臨むこと。また、具体的援助は対象を通して習得できるようにするため事前の練習が必須である。看護過程の展開では、身体的・心理的・社会的側面の情報収集、アセスメントを活かし、個別性のある援助ができるようすすめます。 カンファレンスやグループ学習の中から、学びの共有を図るとともに、主体的に発言や行動がとれることを期待します。

授業科目名	成人看護学実習Ⅱ/Ⅲ（健康段階別）		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024 年度	学　期	全期
年　次	2～3 年次	授業回数	
単　位　数	各 2 単位	単位時間数	各 90 時間
授業科目の概要	成人看護学実習Ⅱ及びⅢは担当した対象の病期（急性・回復・慢性・終末期）に合わせて看護過程の展開を行います。成人期は、身体的・生理的諸機能が成熟し、安定した時期であると同時に、家庭内の責任や社会的役割が重くなっており、疾患を持つこと、入院することが、対象および家族に及ぼす影響は大きいとされています。急性期は、身体機能の急激な低　下により生命の危機に陥りやすく身体機能の悪化の早期発見と回復の促進、心理・社会的危機の回避、日常生活行動の支援、社会的支持が必要となります。回復期では、機能障害および生活能力の障害により継続的な援助を必要とする人と家族への健康問題を包括的に理解し、専門的援助を行うために必要な看護実践能力を培うことをめざします。慢性期では、成長発達の特徴や健康障害によって影響する生活の QOL に焦点をあてた、看護について学んでいきます。人生の終末を生きる終末期では対象を全人的に理解し、おかれた状況に応じた援助の実際を学びます。また、対象の苦痛を緩和し、よりよい日常生活を送るための支援に必要となる基礎的な看護実践能力を身につける実習を行っていきます		
授業科目の到達目標	1. 様々な病期にある対象及び家族の特徴、役割が述べられ、どのように療養生活に影響しているか分かる 2. 様々な病期にある対象の病態をふまえたアセスメントができる 3. 疾病及び対象に出現している症状をアセスメントできる 4. 療養が対象及び家族の価値観をふまえアセスメントし、目標や援助計画の立案、看護援助の実施・評価・修正ができる 5. 保健医療チーム内での看護の役割が理解できる		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	実習方法	記録用紙
1	【学内日①】 1. 実習オリエンテーション 2. 技術練習 3. 受け持ち患者情報提供と事前学習	実習要項を用いた実習の説明 実習室にて1Gが 1 ベッドを使用し、指示された課題チェック表を用いて技術練習を行う	看護過程様式 1 号 成人看護過程様式 1 号 技術練習課題用紙
2	病棟オリエンテーション 情報収集（VS測定含む） 情報の分類・整理	病棟実習 カンファレンス： 個人目標・G 目標発表、本日の気づきや学びの共有	看護過程様式 1・2 号 成人看護過程様式 1～3 号
3	援助（見学・一部介助） 情報収集・情報の分類	病棟実習	看護過程様式 1～3号 成人看護過程様式 1～3 号

4	情報収集・情報の分類 看護実施・評価	充足・未充足の 決定、看護問題の 方向性の個人指導	看護過程様式 1・2 号 成人看護過程様式 1～3 号
5	【学内日②】 4号用紙の記入 4 号用紙分析・解釈を進める 看護計画を立案する 学習会計画書作成	学内実習　関連図（成人看護過程様式2号）の提出 学習会計画書に必要事項を記載し、教員に提出し添削を受ける	看護過程様式 1・2 号 成人看護過程様式 1～3 号
6	情報の分類・整理 看護問題の明確化	＃1看護計画発表 カンファレンス	看護過程様式 1・2 号 成人看護過程様式 1～3 号
7	看護計画発表 計画実施・評価（追加・修正）	＃2/＃3看護計画発表 カンファレンス	看護過程様式 1・2 号 成人看護過程様式 1～3 号
8	看護計画実施・評価・修正	ケースカンファレンス	看護過程様式 1・2 号 成人看護過程様式 1～3 号
9	【学内日③】 学習会資料の作成 学習計画書に基づき資料を作成 記録の記入　実施・評価・修正	学内実習 テキストや図書館の文献を用い使用し資料を作成する	成人看護過程様式 6-1 号
10	計画実施・評価（追加・修正）		看護過程様式 1・2 号 成人看護過程様式 1～3 号
11	計画実施・評価（追加・修正）	カンファレンス 成人看護学実習を通しての学び・気づき、今後の課題	看護過程様式 1.2.5 号 成人看護過程様式 1～3 号
12	学習会発表会準備 成人看護学実習のグループ合同学習会実施（学習会終了後は振り返りをグループ全体で行い記録用紙に記入し、担当教員に提出する		看護過程様式 1.2.5 号 成人看護過程様式 1～3 号

使用テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学①　成人看護学総論 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　ヌーベルヒロカワ ナースのためのくすりの事典 2017　へるす出版　　検査値ガイドブック　　他
参考書・資料　等	対象に合わせて選択
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般、人体の構造と機能、疾病治療論、基礎看護学概論、基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ、臨床看護総論、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴ
この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴ、成人看護学実習Ⅰ～Ⅲ、 看護の統合と実践　看護の統合Ⅰ～Ⅱ
成績評価の方法	評価表参照

その他 受講生への要望等	対象の生活習慣が及ぼす影響と、病態を関連させながら、疾患と合併症の主要症状が理解できるように、知識を確認して臨むこと。また、具体的援助は対象を通して習得できるようにするため事前の練習が必須である。看護過程の展開では、身体的・心理的・社会的側面の情報収集、アセスメントを活かし、個別性のある援助ができるようすすめます。 カンファレンスやグループ学習の中から、学びの共有を図るとともに、主体的に発言や行動がとれることを期待します。

授業科目名	老年看護学実習Ⅰ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024 年度	学　期	後期
年　次	2 年次	授業回数	9 日間
単　位　数	2 単位	単位時間数	90 時間
授業科目の概要	介護老人保健施設、老人福祉センター、健康な高齢者インタビューでの実習をとおして、多様な場で生活する老年者の特性と老年者を支援する職種間の協働・連携のあり方について学びます。		
授業科目の到達目標	1.老年期にある対象の身体的・精神的・社会的変化が理解できる 2.加齢変化が対象の健康・生活に及ぼす影響を理解できる 3.老年期にある対象の生活を支える職種の役割および連携について理解できる 4.老年期にある対象の価値観の多様性を理解し、尊重した態度がとれる		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	実習方法	記録用紙
1	介護老人保健施設の概要 施設オリエンテーション	介護老人保健施設実習	老年看護学実習Ⅰ 記録様式 2-1 号
2	通所型サービスを利用する老年者の健康状態 入所型サービスを利用する老年者の健康状態		
3	加齢に伴う変化を考慮した日常生活援助方法 介護老人福祉施設で働く看護師および他職種の役割		
4	介護老人保健施設における安全管理 介護老人福祉施設で生活する老年者の生活状況・健康状態		
5	老年者とのコミュニケーション 認知機能低下をもつ老年者とのコミュニケーション		
6	老人福祉センター 施設オリエンテーション 老年者とのコミュニケーション 体験活動・行事の参加	老人福祉センター実習	老年看護学実習Ⅰ 記録様式 2-2 号
7	学内 高齢者インタビュー	個人ワーク グループワーク	老年看護学実習Ⅰ 記録様式 2-1 号 記録用紙 2-2 号 記録用紙 3 号
8	老人介護保険施設記録まとめ 老人福祉センター記録まとめ		
9	ワールドカフェ		

使用テキスト	系統看護学講座専門Ⅱ老年看護学/医学書院 系統看護学講座専門Ⅱ老年看護病態・疾患論/医学書院

	パーフェクト臨床実習ガイド老年看護/照林社
参考書･資料　等	地域療養を支えるケア/メディカ出版 老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱ講義資料
この授業科目の前提となる主な科目	老年看護学概論･老年看護学方法論Ⅰ･老年看護学方法論Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	老年看護学方法論Ⅲ･老年看護学実習Ⅱ
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	既習の知識･技術をもとに老年期にある対象と積極的にコミュニケーションをはかってみましょう。

授業科目名	老年看護学実習Ⅱ		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024 年度	学　期	通年
年　次	2～3 年次	授業回数	
単　位　数	2 単位	単位時間数	90 時間
授業科目の概要	老年期特有の健康問題に由来する生活機能障害のある老年者を受け持ち、看護過程の展開をとおして、加齢変化・健康障害のある対象を総合的に理解し、対象に応じた看護を実践するために必要な能力を養います。		
授業科目の到達目標	1.老年期にある対象の身体的・精神的・社会的変化が理解できる 2.加齢変化・健康障害の程度に応じた看護技術が提供できる 3.老年期にある対象への理解を深め、老年看護の機能と役割が理解できる 4.老年期にある対象とその家族の人生観・価値観等を理解し、尊重した態度がとれる 5 老年期にある対象及び家族をとりまく社会環境の変化を理解し、保健医療福祉の連携・協働を学ぶことができる 6.老年期にある対象の看護をとおして自己の老年観を養うことができる		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	実習方法	記録用紙
1	【学内】オリエンテーション 患者情報・事前学習の提示・技術練習 患者情報受け取り 【病棟実習】 病棟オリエンテーション 受け持ち患者紹介 受け持ち患者、情報収集・病態の把握	個人ワーク 記録指導 病棟実習 カンファレンス： 個人目標・グループ目標発表	初日の行動計画 事前学習 初日の行動計画 個人目標用紙 グループ目標用紙 看護過程様式 1～7号 老年様式1号
2	情報収集・病態の把握、情報収集 加齢変化が基本的欲求に及ぼす影響の把握 充足・未充足の判別	病棟実習 個人指導	看護過程様式 1～7号 老年様式 1 号
3	優先順位の決定 分析・解釈	病棟実習 記録指導：看護の方向性 充足・未充足の判別、優先順位の決定	看護過程様式 1～7号 老年様式 1 号 充足・未充足の判別
4	主項目・関連項目の分析・解釈	病棟実習 個人指導	看護過程様式 1～7号 老年様式 1 号
5	【学内】 分析・解釈の追加修正 看護計画の追加・修正	個人ワーク 記録指導	看護過程様式 1～7号 老年様式 1 号

6	計画立案・発表	病棟実習 カンファレンス：看護計画発表	看護過程様式6―2号 老年様式1号
7	実施・評価	病棟実習 記録指導：看護計画の追加・修正	看護過程様式 1～7号 老年様式1号
8	実施・評価	病棟実習 記録指導：看護計画の追加・修正 カンファレンス：振り返り発表	看護過程様式 1～7号 老年様式 1 号
9	【学内】 看護計画の追加・修正	個人ワーク 記録指導	看護過程様式 1～7号 老年様式 1 号
10	【学内】 総合評価 実習全体の振り返り、老年観の発表	個人ワーク 記録指導 カンファレンス：振り返り、老年観	看護過程様式 1～7号 老年様式1号 振り返り用紙

使用テキスト	系統看護学講座専門Ⅱ老年看護学/医学書院 系統看護学講座専門Ⅱ老年看護病態・疾患論/医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド老年看護/照林社 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践/ヌーヴェルヒロカワ エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図/中央法規出版
参考書・資料　等	今日の治療薬 2023/南江堂 検査値ガイドブック/サイオ出版 地域療養を支えるケア/メディカ出版 老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ講義資料
この授業科目の前提となる主な科目	老年看護学概論・老年看護学方法論Ⅰ・老年看護学方法論Ⅱ・老年看護学方法論Ⅲ 老年看護学実習Ⅰ
この授業科目から発展する主な科目	看護の統合実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	既習の知識・技術をもとに老年期にある対象を深く理解し、老年者のもつ強みを引きだす援助を行ってみましょう。

授業科目名	小児看護学実習		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024 年度	学　期	全期
年　次	2～3 年次	授業回数	
単 位 数	2 単位	単位時間数	90 時間
授業科目の概要	小児看護学実習では対象の理解を深めるため、健康児とも関りを持ち、成長発達段階について具体的なイメージを形成します。それらをベースとして、健康破綻した児の成長発達段階・健康段階に応じた看護が実践できる基礎的能力を養います。また、患児だけでなく家族も看護の対象であることの認識を深め、家族に対する看護展開も考えていきます。		
授業科目の到達目標	1. 健康な子どもの成長発達を理解し、適切な日常生活の援助、事故防止に努めることができる。 2. 医療的ケアを必要とする子どもと家族を支える多職種連携について学ぶことができる。 3. 子ども及び家族の看護上の問題を明確にし、子どもの発達段階を考慮した看護が実践できる。 4. 子どもをひとりの人格を持った人間として尊重し、自己の子ども観を形成することができる。 5. 看護者として必要な基本的な態度を身に付け、自己を振り返ることができる。		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	実習方法	記録用紙
1 ～ 4	【病棟実習4日間】 オリエンテーション 看護実践（ケアの見学・一部介助・実施） カンファレンス 外来実習（状況に応じて）	病棟実習 ・看護実践 ・カンファレンス ・記録指導	看護過程様式 1～6号
5	【学内①】 病棟実習記録まとめ 事例紹介・ケース発表	学内 ・カンファレンス ・記録指導	小児様式 1 号 小児様式 2 号
6 ・ 7	【保育園実習2日間】 0歳～5歳までの事前に決めたクラスに入り、保育士とともに保育の実際を見学、実践する。	保育園実習	小児様式 1 号 小児様式 2 号
8	【学内②】 成長発達段階の学びの共有 1.年齢（月齢）の成長発達段階についてのまとめ 2.まとめた成長発達段階についての意見交換 ペーパーペイシェント事例課題	学内 ・カンファレンス ・記録指導 ・調べ学習	小児様式3号

9	【学内③】 ペーパーペイシェント事例発表 小児領域国家試験問題チャレンジ 実習記録のまとめ・振り返り	学内 ・発表会 ・記録指導	小児様式1～3号 看護過程様式1～7号
10	【病院・施設見学】（8 月に実施） 子ども専門病院の看護師による施設紹介 病棟保育士、MSW によるケース紹介 マクドナルドハウスのスタッフによる施設紹介	臨床講義 施設見学	小児様式4号

使用テキスト	
参考書・資料　等	
この授業科目の前提となる主な科目	小児看護学概論　小児看護学方法論Ⅰ　小児看護学方法論Ⅱ　小児看護学方法論Ⅲ
この授業科目から発展する主な科目	看護の統合実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価
その他 受講生への要望等	臨地実習は期間が限られているため、1日1日の関わりが貴重な学びとなります。体調管理には十分に注意をして、休むことなく実習に参加できるようにしてください。

授業科目名	母性看護学実習		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024 年度	学　期	全期
年　次	3 年次	授業回数	10 日間
単　位　数	2 単位	単位時間数	90 時間
授業科目の概要	母性看護学実習では、ライフサイクルを踏まえて対象の特徴を理解し、必要な援助と保健指導ができる基本的能力を養う。妊婦、産婦、褥婦、新生児を中心に生理的な経過を判断し、周産期の看護を考える実習としたい。出産や育児は、心理的不安が増す傾向があり、母親のみならず家族を含めた支援が母性看護の大きな役割の一つである。実習では実際に生命の誕生や、幼い命を育む過程に触れることで命の尊さを実感する機会となる。自己の親性観（母性観・父性観）についても考える機会となる。また、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を学ぶことを目的に、地域における母子に必要な社会資源について理解する。		
授業科目の到達目標	1. 妊娠各期の経過を理解し、妊婦に必要な援助が理解できる。 2. 分娩・産褥の経過を理解し、健康回復に必要な援助が理解できる。 3. 新生児の生理的経過を理解し、胎外生活への適応について基本的な援助が理解できる。 4. 生命の尊さがわかり、自己の親性観（母性観、父性観）を深めることができる。 5. 地域における母子に必要な社会資源について理解できる。 6. 男女共同参画の活動支援について理解し、女性のライフサイクル支援の基本を学ぶことができる。		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	実習方法	記録用紙
	【学内】実習・保健指導オリエンテーション 母性看護技術の学習・確認・実施	学内	
	【病棟】・オリエンテーション 受け持ち紹介（母・児） バイタルサイン測定・一般状態の観察 母児への援助の見学・実施 指導見学 分娩見学 連携部門の見学等 ・アセスメント 妊娠期・分娩期 出生直後の新生児 産褥期・新生児期	病棟実習 カンファレンス	1～6 号
	【学内】実習振り返り・記録指導	学内 個人ワーク	上記同様

	【臨地】子育て支援センター 【学内】保健指導案・教材作成	グループワーク	9 号
	【学内】保健指導案・教材作成	グループワーク	7・8 号
	【学内】保健指導実施・リフレクション 深掘り学習・学習会資料作成	グループワーク リフレクション	
	【学内】学習会 母性看護における倫理について DVD 視聴・カンファレンス	DVD 視聴 カンファレンス 個人ワーク	12 号
	【臨地】①子育て包括支援センター ②男女共同参画センター	事前課題 講義・見学	10・11 号

使用テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学概論　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　医学書院
参考書・資料　等	病気がみえる⑩産科
この授業科目の前提となる主な科目	母性看護学概論　・母性看護学方法論Ⅰ～Ⅲ
この授業科目から発展する主な科目	看護の統合実習 小児看護学 地域・在宅看護論
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	母性看護学実習の受講には、実習前に、以下の科目を全て修得している必要がある。 ・母性看護学概論　・母性看護学方法論Ⅰ～Ⅲ

授業科目名	精神看護学実習		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年度	学　期	全期
年　次	2～3 年次	授業回数	
単 位 数	2 単位	単位時間数	90 時間
授業科目の概要	精神障害を持つ対象と関わり、対人関係を形成して必要な援助の実践を通し、精神保健医療福祉領域における看護の役割と機能、地域生活支援のあり方、精神障害を持つ対象とその家族に対する看護実践に必要な基礎的知識を学びます。精神科病棟や事業所で実習を行い、病棟－地域をつなぐ切れ目のない支援について理解を深めていきます。		
授業科目の到達目標	1. 精神障害を持つ対象を理解し、対象に応じた援助が実施できる。 2. 精神障害を持つ対象との関わりを通して自己洞察し、対象との関係を深めることができる。 3. 精神看護における倫理観や精神障害者観を養う。 4. 地域で暮らす精神障害を持つ対象の想いを知り、地域で暮らすための支援について理解を深める。 5. 精神障害を持つ対象に関わる保健医療福祉チームにおける連携・協働を理解する。		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	実習方法	記録用紙
1	【オリエンテーション】 ・病棟実習オリエンテーション ・病棟実習に向けての事前学習	・個人ワーク ・知識確認テスト	7 号
2	【病棟実習・1 日目】 ・病棟オリエンテーション ・情報収集 ・コミュニケーション	・指導者より指導を受けながら実習する。 ・カンファレンス	1～3 号 アセスメントシート 7 号
3	【病棟実習・2 日目】 ・情報の分類、整理 ・日常生活援助の見学、実施	・指導者より指導を受けながら対象の援助を実施する。	1～3 号 アセスメントシート 7 号
4	【学内①】 ・情報の整理、分析 ・プロセスレコードの記入	・教員より指導を受けながら思考の整理や関わりについて振り返る。	1～3 号 アセスメントシート 7～8号
5	【病棟実習・3 日目】 ・情報の整理、分析 ・日常生活援助の実施	・指導者より指導を受けながら対象の援助を実施する。 ・カンファレンス	1～3 号 アセスメントシート 7 号
6	【病棟実習・4 日目】 ・日常生活援助の実施	・指導者より指導を受けながら対象の援助を実施する。 ・カンファレンス	1～3 号 アセスメントシート 7 号

	＊病棟実習期間中に下記内容の見学や体験の実施 隔離室入室体験、身体拘束体験、デイケア見学、電気けいれん療法見学		
7	【学内②】 ・事業所実習に向けての事前学習 ・SST の体験	・個人ワーク	9号 10号
8	【事業所・1 日目】 ・オリエンテーション ・プログラムに参加	・指導者より指導を受けながら実習する。 ・カンファレンス	10号
9	【事業所・2 日目】 ・プログラムに参加	・指導者より指導を受けながら実習する。 ・カンファレンス	10号
10	【学内③】 ・精神看護を語る会の実施	・実習での体験をまとめて発表しメンバーと学びを共有する	
11	【学内④】 ・実習記録の整理 ・実習のまとめ、振り返りの記入 ・知識の確認	・個人ワーク ・知識確認テスト	まとめ・振り返り

使用テキスト	専門分野Ⅱ　精神看護学①　精神看護の基礎　医学書院 専門分野Ⅱ　精神看護学②　精神看護の展開　医学書院
参考書・資料　等	パーフェクト臨床実習ガイド　精神看護
この授業科目の前提となる主な科目	精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰ、精神看護学方法論Ⅱ、精神看護学方法論Ⅲ
この授業科目から発展する主な科目	看護の統合と実践実習
成績評価の方法	評価表に準じて評価する
その他 受講生への要望等	精神障害者との直接的な関わりを通して、精神障害者に対するイメージが肯定的に変化したり、対象理解が進むことで患者－看護師関係が発展していく感動を経験しましょう。

授業科目名	看護の統合と実践実習		
実務経験講師	○	実務経験	看護師
開講年度	2024年度	学　期	後期
年　次	3 年次	授業回数	11 日間
単　位　数	2 単位	単位時間数	90 時間
授業科目の概要	保健・医療・福祉チームの一員として、臨地での看護活動の実際を経験することで、既習の知識・技術・態度を活用した看護実践能力を養い、卒業後の看護活動に適応できる能力を培います。		
授業科目の到達目標	1. 看護管理の実際と、組織における看護師の役割と機能について理解できる。 2. 特定の専門領域における看護師の役割と、病院内における業務の実際について理解できる。 3. チーム医療及び多職種と協働の中で、看護師としてのリーダーシップ・メンバーシップを理解することができる。 4. 複数患者の看護において、優先順位の判断や時間管理を意識した行動ができる。 5. 産業保健・看護活動の実際を知ることにより、病院以外の場所で行われる継続看護の必要性について理解できる。 6. 実習での経験を振り返り、将来の看護実践者としての自己の課題を明確にできる。		

授業スケジュールと内容

回	内　　容	実習方法	記録用紙
1	【学内】オリエンテーション 公共施設・病院実習について	学内	
2	臨床講義 1. 看護部長の役割と機能を知る 2. 病棟管理者の役割と機能を知る	講義	実習記録1号
3	病院実習 1. リーダーの役割と業務の実際を知る（1日） 2. メンバーの役割と業務の実際を知る 3. チームの一員として優先順位を考えて行動できる（3日） 4. 夜間の看護師の役割と業務の実際を知る　（1日） 5. 外来、検査部門での看護師の役割と業務の実際を知る（1日） 6. 特定の専門領域における看護師の役割を知る（半日）	病棟実習 業務見学・講義	実習記録2号
4			
5			
6			
7			
8			
9		カンファレンス： 実習のまとめ	
10	産業保健・看護活動の実際 産業看護・看護活動の実際を知ることにより、継続看護の必要性を知る。	見学実習	実習記録4号

11	【学内】産業看護 企業に勤める労働者の健康診断の結果（事例）をもとに、必要な保健指導内容をグループ間で意見交換し、検討する。	DVD グループワーク	実習記録5号
12	【学内】発表会 実習のまとめ	個人ワーク グループワーク	実習記録6号

使用テキスト	これまで使用したテキスト全般
参考書・資料　等	各科目の授業資料
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学、看護学概論、成人看護学実習、老年看護学実習、母性看護学実習、 小児看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習、臨床看護実践論、 看護の統合と実践Ⅰ（医療安全、看護倫理、看護管理）、 看護の統合と実践Ⅱ（国際看護、災害看護）
この授業科目から発展する主な科目	科目全般
成績評価の方法	評価表に準じて評価します
その他 受講生への要望等	本実習は、基礎、成人、老年、小児、母性、精神、在宅、看護の統合と実践で学んだ既習の知識・技術や自己学習を活かして考えながら積極的に学ぶことができるよう期待します。 看護の統合と実践の受講には、実習前に実習科目のすべての単位を修得している必要があります。